新聞　第3種郵便物認可

「休業」明け 拭えぬ不安

スポーツクラブ 会員3割減 借り入れ頼み

居酒屋 「騒いで飲む」と違う形を模索

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言が解除され、県による休業要請も解除や緩和の方向に向かっている。しかし、営業を再開しても「コロナ前」にまで回復するのは難しいとの見方もある。企業経営者の不安は尽きない。（采沢嘉高）

業が続くスポーツクラで取材に応じた「シン・スポーツ・サービ」の飯野社長＝5月12、川越市旭町2丁目

スポーツクラブやスイミングスクールなどを県内で展開する「シンワ・スポーツ・サービス」（本社・川越市）の飯野知之社長(48)は長引く休業要請に「どうしたらいいんでしょう」とため息をつく。

4月以降、県が休業を求めたスポーツクラブなどを経営しており、関係施設をすべて休館させた。借地代などの固定費や、社員約50人とアルバイト約200人の給与を支払い続ける一方、約1万2千人いた会員は3割減った。残りの会員も休会状態となり、売り上げ約2億5千万円分が消えた。年商の半分にあたる約5億円を借り入れざるを得なくなった。

県の休業要請はあくまで「お願い」の位置づけのためタジオの定員や使用時間を短くするなど「3密」回避にも配慮。ランニングマシン1台ごとにシートで仕切るなど飛沫防止策もとる。

スポーツクラブ内にあるプールは休業要請の対象から外れたため、営業は6月2日から再開した。ただ、ジム部分は休業要請の対象のままだ。県は解除の方向で検討を進めるが、飯野社長は、スポーツクラブとは別施設で20～30代の利用が多い24時間制の小規模ジムは、利用制限をかけて1日から営業を始めた。同業他社が再開させており「このままでは会員が移ってしまう」と懸念したためだ。

今後、全面再開となっても不安は多い。飯野社長は「会員は本当に戻ってくれるのだろうか」と言う。

県内外で居酒屋やラーメン店など約50店舗を経営する「アデッソ」（本社・東京都）の岩田真理社長(59)は「打開策について日々悩ましく考えている」。外出自粛などの影響で、4～5月の売り上げは前年同期に比べ約6割減った。社員約80人の雇用は維持したが、複数の金融機関からの借り入れに頼らざるを得ないという。

外出自粛が緩和されたものの、「コロナ前」の6割程度しか客が戻らないとみる。「わいわい騒ぎながら酒を飲む」スタイルは敬遠されがちになるとも読んでいる。「違う形で顧客にアプローチするしか生き残れない」と岩田社長。仕入れ先とのパイプを生かし、食材や調理品の個別配送事業などに取り組もうと構想を練っているという。

通販需要で好調の派遣会社

「運よく生き残れた」

コロナ禍のなかで売り上げが増えた企業もある。

ベトナム人留学生ら外国人を中心とした派遣会社「R&G」（さいたま市大宮区）は、4月の売り上げが前年同月比で約15％増えたという。

「コロナ前」から、主な派遣先は通販会社の倉庫と食品会社の工場が占めている。「ステイホーム」により、通販需要などが高まり、その関連事業にも波及した結果とみる。2月に350人だった派遣者数は4月までに400人となった。

吉田忠義社長(43)は「派遣先が偶然営業を続けられる業種だった。運良く生き残ることができた」と言う。ただ、派遣先で感染が広がれば、事業は苦しくなる。派遣先の会社数を増やすとともに、分散させる必要があると考えている。

川口で1人死亡 新たな感染なし

川口市は、新型コロナウイルスに感染して医療機関に入院していた市内の80代男性が1日に死亡したと、2日発表した。県内の死者は49人となった。また、県